

「第5回御所市地域公共交通会議」議事要旨

日 時：平成23年2月10日（木）

午後2時～午後3時45分

場 所：御所市役所本館3階 第1会議室

議事要旨

1. 平成22年度計画事業の進捗状況について

事務局より、委員の変更について報告があった後、資料1「平成22年度計画事業の進捗状況」、別紙「臨時バス運行事業 収支報告」及び「『ごせ 葛城の道 臨時バス』運賃実績」について説明が行われた。

【質疑応答】

- (会 長)事務局から説明があったとおり昨年10～11月に臨時バスを運行した。皆様のお陰で、乗車人数は前回より71%増加しており、ある一定の成果はあった。意見等はないか。
- (委 員)PRでバスを知った広報媒体は、チラシ、ポスター、フリーペーパーで、駅・JR等に置いたとのことだが、具体的にどこに置いたのか。
- (事務局)チラシについては、御所市内の他、奈良県に依頼して県内の各施設に配布した。また近鉄・JR・奈良交通にはチラシを主要の駅に置くよう依頼した。同時に駅へのポスター掲出をお願いして、乗車される方に周知されるようにした。
- (委 員)枚数的には、どれくらいの枚数か。
- (事務局)調べてから伝える。
- (委 員)もっと乗客数を増やす方策として今後もPRを続けるべきか、今と同じようなやり方で継続し、このままこの事業を進めて行くのかを聞かせてもらいたい。
- (会 長)事務局では、この成果をどう検証するか、どう捉えるのか。
- (事務局)平成22年度の臨時バス運行事業の検証については、皆様からのご意見をこの場で伺い、それを参考にしてこの事業を継続していくかどうかを考えたい。
- (会 長)今、事務局の方から逆に意見があったがどうか。奈良交通をはじめ、近鉄、JR等にご協力をいただき、ポスター等を貼ったが、何か意見はあるか。奈良交通はいかがか。
- (委 員)まず、今回のバス運行に当たり、ルートにコーンを置く等の御所市の協力もあり、スムーズに運行できた。当社の方でも去年の平城遷都1300年祭の事業で、チラシ等は車内での一般の路線バスも含め、奈良市の方にも宣伝し、少しでもこのバスをご利用いただけるように努力し、当社でもできる範囲協力した。

- (会 長) 奈良交通には実際に運行してもらい、色々ご苦労をおかけしたが、事故もなく無事終了できたという状況だ。他にご意見はないか。
- (委 員) この事業は、事業費が400万円なので、フリーパス500円では単純に約8千人の利用がないと成立しないが、近鉄御所駅の1日乗降人員の大体4～5倍、ロープウェイの一番いい時と同じ状況で、難しい数字だ。一方でPRとして見た時に、JRや近鉄の駅にポスターを貼ったり、チラシを置いたりすることは、かなりの経費がかかるものなので、PR効果を考えると安い事業費で上手くされたという感想だ。今後も協力したいと思うが、地元の評価がどうなのかということが大事かと思う。
- (委 員) 車に乗らない私はバスが有効に利用できると思い、NPOに提案をしたことがある。そこでNPOで参加しようとしたが、タイミングが合わず、できなかった。今後も続けるには、ぜひ地元の団体などに声を掛けることにより、口コミで広げることが大切だと思う。
- (委 員) 私は御所市の観光ガイドをしており、御所に来られた人が「臨時バスで便利になった。」と言っていた。他府県からの人も利用する範囲が広がったのではないかと思う。経費と収入の関係を見ると、収入の10倍も経費がかかっており、事業として進んでいけるのか懸念しているが、実際に8千人の利用客がなくても、もっと付加価値が出てくるように、このまま続けてほしい。住民の中には御所市にはいい所があるのだという認識がまだ薄いのではないか。さらに良くなるはずだ。金額的に許されるならば続けてもらいたい。
- (会 長) この事業を地元の行事などに絡ませたらどうかという提案だ。霜月祭があったが、(アンケートで)目的地を御所まちとするものが非常に少ない。目的が違うものを同じようにリンクさせるのは難しいかも知れないが、その辺を考えていきたい。
- (事務局) 先ほどの質問に対してだが、広報チラシのポスターの枚数でJRにお願いしたのは、11,700枚のチラシと36枚のポスター、近鉄には、31,000枚のチラシと46枚のポスター、奈良交通には1,000枚のチラシをお願いした。他、ポスターについては、市内各自治会等に掲出した。
- (会 長) 他に意見はないか。
無いようなので、臨時バスの運行状況については以上とする。

3. 平成22年度事業計画の変更案について

事務局より、資料2-1「平成22年度事業計画(変更案)、平成22年度事業計画」、資料2-2「平成22年度予算(変更案)、平成22年度予算」、資料2-3「事業費の内訳(変更案)、事業費の内訳(現行)」について説明があった。また、事業スケジュールに影響した、負担金の遅れについて奈良県から説明があった。

【質疑応答】

(会 長) 今、奈良県から説明があったが、それに対して今後の事で事務局から何かあるか。

(事務局) 現段階で予定の2事業は進んでいない。しかし、まだ本年度の期間があるので、この後の事業の進め方について皆様にご了解いただき、事業を実施したい。

(会 長) 本年度は3つの事業を予定し、臨時バスについては先に説明のあった通り実施済み、公共交通マップ作成等は、現在作成について調整中で、本年度内にはできる予定、3つ目の案内サインの整備はまだ未実施とのことだ。その理由は予算がない中で時間が経過したということ説明であったが、事務局では事業計画の変更を考えているので、次に平成22年度事業計画の変更案について説明してもらおう。

(事務局) 今年度の計画事業のうち、交通マップの作成についてはこのまま進めるが、案内サインの整備は年度末までの実現が無理である。また、その整備には、事業を行う前にきっちり駅前等を調査、確認すべき事項があるので、まずは本年度3月までにその点を十分に調査分析して、その結果を踏まえて23年度事業として実施に向かいたいと思う。そこで、公共交通マップの作成、フィーダー交通の再配置を一括の業者委託として3月末までの事業として進めたいと考えている。この変更について提案し、皆様のご意見をお伺いしたい。

(会 長) 今、事務局から説明があったが、事業費の内訳のうち、公共交通マップは本年度内には作成するとのこと。臨時バスは、実際に運行した。御所駅等でのフィーダー交通や御所まち界隈への案内サインの整備や歩行環境の改善は、県からの補助金の受入れに時間がかかったので、業者に発注する期間がなくなり見直す。今後、年度内に準備をして可能ならば、来年度に行うとの説明だ。近鉄御所駅前広場のフィーダー交通の再配置と待合い環境改善の中の検討業務については、23年度でもやっていく必要がある。それをつなげる為の事業計画を変更してほしいとの意見かと思うが、どうか。逆に施策をしないことによる影響は何かあるか。

(事務局) 案内サインの整備の4,200,000円の事業費が未執行となるので、事業を組み替え、御所市の公共交通のために必要な事業を進めていきたい。そのための今回変更案の提案である。

(委 員) 施策 の近鉄御所駅前広場のフィーダー交通の再配置と待合い環境の改善で、前回も身体障害者、車椅子のためにバリアフリーにしてほしいと発言した。臨時バスの運行では参加者年齢60歳以上が過半数を占めており、皆さんが安心して利用できるよう、御所駅前を優先的に整備してもらいたい。市民の方々も望んでいる。また、24号線はかなり交通量の激しい所なので、駅前広場、バス待合所は早急に整備をお願いしたい。

(事務局)もし施策 が今回審議され、平成23年度に進められれば、その中に現在、歩行環境の改善の検討業務も入れている。交通弱者がどういう問題を抱えているかを専門家の目で見てもらい、どのように改修していくかを検討したいと考えている。

(会長)他にないか。今年度、時間がない中、1月半の間で施策 はできるということでもいいですね。

(事務局)大急ぎで発注し、3月末に向けてできるということで提案している。

(会長)わかった。それでは、事務局から提案があった事業計画の変更で、進めるという形でいかがか。

(各委員)異議なし。

(委員)近鉄御所駅前広場のフィーダー交通の再配置と待合い環境の改善は、具体的にどういう形で行われるか。

(事務局)変更案でよければ、御所市の入札関係課に協力をお願いし、速やかに発注を進める。

(会長)お尋ねの内容は中身なのか、どういう事をするのかということか。

(委員)はい、中身です。フィーダー交通の内容がつかめない。

(事務局)公共交通マップの作成は、マップと小冊子の作成で公共交通の利用促進につながるイメージだ。フィーダー交通の再配置と待合い環境の改善については、バス・タクシー、または駅周辺を改修して公共交通の利用につながるという事で再配置を検討するものだ。ただこれは事業としてのイメージであり、大きな意味で言えばタクシー乗り場の変更も事業としてのイメージなので、今回の業務委託というのは一番良い駅前環境にするにはどういった形が良いのかということを検討する作業である。また、案内サインを整備する場合は、どこに立てるのかを十分に検証した上で設置するのが一番効果的なので、まず先に考えるのが良いと思う。施策案の事業を実施するにあたり、これに至る前段階の大きな検討を今年度行い、それを活かして次年度に取り組んでいくための検討業務になっている。

(会長)他にないか。それでは事務局の提案の変更案でご承認いただけたということで、進めさせてもらおう。

4.平成23年度事業案について

事務局より資料3「御所市公共交通会議 3ヶ年スケジュール案」の説明が行われた。

【質疑応答】

(会長)事務局から2011年度ではこういう事業をしたらどうかとの説明があっ

たが、どうか。

(委員) 駅前広場の待合い環境と再配置の検討が決まった。次年度から実施に向けた調整に入り、実施していくと思うが、本年度の駅前広場の再配置と待合い環境改善は、御所市で協議することでよいか。それで次年度4月以降で奈良交通やタクシー、公共交通等と調整し、期間等をヒヤリング等で意見を言わせていただく事と考えてよいか。

(事務局) 本年度は業者委託によって検討・調査分析を行うが、実際の実施になると関係機関の調整も、実際にフィーダー交通の細かい再配置ができるかどうか、予算的な部分も十分に踏まえた上で検討して行かなければならない。(資料は) 参考程度である。大掛かりなものについては検討事項も多く、難しい部分もある。できるところから行いたいと思っているので、優先的に考えた方がいい事業について意見を伺いたい。

(事務局) 再配置で検討しても当然、交通事業者においては、いきなりそこに持って行くこともできないだろう。例えば、その対策で皆さんにご協力いただけるか、どういう内容にしたらよいかという事も合わせて、今年度いろいろな検討をして行きたい。足並みが揃わないとできない事業なので、当然来年度以降の実施になるはずだ。ただ、今年度に予定される検討事業については、近鉄、奈良交通等、公共交通機関はもとより、国道にも接している駅前が対象であり、観光案内板を作ることも検討しているので、皆様のお知恵をお借りしていきたい。

(会長) 予算はどうなっているか。予算の見通し、予算との兼ね合いについて聞きたい。

(事務局) この協議会では、奈良県の負担金を中心に、国庫補助金を事業費として事業を進めているところだ。今の流れでは難航しているところが非常に多い。今後は協議会の中での事業費の負担について、どういう形をとればいいのかを検討していく必要がある。当面は今のスキームをベースにしながら進んで行かだろうが、その辺のご意見も伺いたい。

(委員) この協議会自身は3年スケジュールで考えている。今、県で奈良県交通基本戦略という交通政策に関する指針の作成を進めており、この2月の県議会に上程した。その中で公共交通協議会の運営についても県の指針としていこうといった方向で活性化していこうと盛り込んだ。その中で協議会の考え方、取り組み方として、キーワードとしては「効率化を図る」とか、「地域とできるだけ連携をとる」などを図ってもらい、県としてできるだけ支援を行っていきたいと思っている。しかし、どこまでの支援ができるかは明確でなく、その支援のスキームも財政当局と最終調整をしており、その状況を見て、協議会に対する支援の方法も変わって行くかもしれない。

- (会 長) 今日が第5回の会議だ。先ほど事業計画の変更で第6回ができればという話だった。その時にはある程度の予算も確定してそれに基づいた実施施策案も出てくるはず。皆さんに審議していただいても、予算がはっきりしていない審議をして良いのかどうか疑問だ。予算が増えるか減るか分からない状態では、今回の段階ではどの程度の審議をしていいのか。
- (事務局) その通り。予算が不確定なのに事業を完全には継続することはできない。委員から意見を伺い、予算がある程度見えてきた段階で意見を伺った事業を中心に検討していくことができるのではとの思いだ。優先順位だけでも今日お話を伺いたい。
- (委 員) 先ほどの予算の話で、予算要求中だが、基本的には県では継続して予算措置ができるように考えている。
- (会 長) 例えば、臨時バスについても施策 の中で訂正になっても、継続運行という形で、実施できるか。
- (事務局) 臨時バスは一度実施しているので、例えばやっていない事業を中心に組み立てることも一つだ。また、施策 はバスに関連する交通実証事業だ。施策 は臨時バスの交通実証運行に関連する施策である。これら交通実証運行を全てやっていくのは厳しい。その中で、やはり臨時バスを継続的という声があれば、そちらの方から優先的に組み立てを考えていくので、ご意見をお願いします。また今年度の検討業務から取り組むなら施策 、施策 になる。
- (会 長) 今、事務局から話があったが、皆さんから優先順位を決めてもらうのは、なかなか難しいと思う。施策 については、先ほど変更計画をご承認いただいたので、延長して平成23年もやっていく方がいいかと思う。
- (事務局) 皆さんに提案です。平成22年度は施策 の方を行ったので、来年度は引き続き施策 を元にしたものをしていきたい。これは事務局からの提案だ。つまり施策 の待合い環境の整備、駅前広場の再配置実施、それから施策 の案内サインの整備、歩行環境の改善を優先してやっていきたいと考えている。何分、事務局の考えなので、皆様からご意見をいただき、次の公共交通会議の方でまとめ、予算の方も合わせて、できる範囲で収まるような形で出していきたいと思っている。それと先ほど、臨時観光バスについても、観光客の方から去年より今年の方が良かったという意見があったので、その辺も合わせてご意見をいただいて参考にしたいと思っている。
- (会 長) 一応事務局としての案を中心に審議を進めたい。事務局の案としては施策 の本年度事業の取り掛かりとして、本格的に来年度に進めさせて行かなければという点が一点、バスは先ほどの施策 を継続するかという点。それから施策 、これが本来ならば、本年度にやる予定だったものを来年度にやらせていただきたいとの意見と思う。7つの事業の中で3点を中心に審議い

ただきたい。それ以外にも施策 ならばどういう形かという意見もいただけたと思う。その辺のところを中心にご意見をいただきたい。

施策 と は良いとして、施策 はいかがか。

(委員) 形からいうと継続してほしい。

(委員) バスの運行ルート見直しの検討をお願いしたい。今年のバスの運行ルートはこれでいいか。来られる方は、かなり高齢の方も多いので、もう少し若い年代層を取り入れられる方向性はないのか。昨年よりも今年が増えたから、来年も同様に継続でよいのかも検討してもらいたい。

(委員) 葛城の道を歩く人はバスに乗らないと聞く。バス乗車を薦めると、「歩きに来たので必要ない」との答え。若い人も歩くと思うので、その辺も考慮したい。具体的に改良をしないと(まちの中からの盛り上げ、コース変更、ワンコインの料金等) 事業としては成り立たなくなる。

(会長) やれば何らかの成果はある。今、提案いただいたコースの変更とか、どういう形で御所市の方に来てもらうのかという点を課題とするべきだ。他にはどうか。

(委員) 話は違うが、施策 の近鉄御所駅周辺のアクセス性の向上で、御所市の下半期計画実施、そのアクセス性の問題に関し、近鉄として御所市に対して意向があれば伺いたい。

(委員) アクセスというのは、主に山側からの話と全体の話があるが。

(委員) 全体の話だ。

(委員) 市の財政状況もあり、駅前整備は相当お金がかかる。弊社が行うべきこととして具体的に色々な提案がある。近鉄も今大変な現状で、これから鉄道収入が毎年大体20～30億ずつ減になり、その中で今後の経営を見直すことが必要になる。今後の鉄道では、少子高齢化、人口減少等により収入減のスピードが思ったより早く、抜本的に、ゼロベースから事業を見直して聖域なしで作業に入ったところだ。

この数年間でまず解消することを意識して、投資に見合えるような効果のあるところに投資していく方針だ。来年、再来年に大きな財務問題を抱え、一律基準の非常に厳しい財務体制になりつつある。エリアエリアごとでかなりシビアな投資と効果の基準を見直しているところだ。当分の期間は非常に厳しいが、その後は場合により皆さんと一緒に進められる要素があれば、積極的に乗降人員を増やすために御所市と検討していきたい。駅前広場自体については行政の仕事が中心になる。公共交通は車がどんどん便利になるが、電車も是非ご使用ご協力願います。私共の沿線では御所駅もあまりきれいな方ではないが、200～300ある駅の中では、まだましな方だ。私共としても何とか動けていけるのではないかと考えている。例えば、御所駅前広場についても、できるかどうかを議論してい

るが、やはりお金の問題がある。これはどちらかと言えば行政サイドの問題であり、それも含めて議論している。

鉄道は乗っていただいての世界だ。待合い環境の整備は、アクセスの問題も定期のお客様も含めて大事だ。一方バスの話も観光や定期外のお客様に対しても重要で、プライオリティとして私共として、できる事からやらせていただく。しかし、儲かっていれば何でもできるが、無い袖は振れないので、いろいろな事を考えていきたい。

(委員) 阿部野駅は開発しているのではないか。

(委員) 実は、うちの沿線では阿部野駅の乗降者数が一番多い。そこに土地を持っており、そこに一番の努力、投資をしてリターンを求める普通のビジネス行為だ。残念ながら京都とか名古屋とか難波等には土地を持っていない。しかも乗降人員が一番多いことで、そこに投資して、そのリターンを期待する。しかし、鉄道本体の年間収入というのは想像を絶するくらいのスピードで落ちている。そういう意味では何とか持ち堪えたい。全体的に経営の話で、そんな中でいろいろな事情があり優先順位をつける。公共交通として安全性への投資も非常に増えている中、そういう取り組みに何とか力になり、また御所市の力を受けて助けてほしいと思う。

(委員) 橿原市は公共交通で発展している。個人的には、京奈和自動車道ができて御所市は発展していくと思うが、駅前には公共交通の鉄道、バスが主体になるので、御所市にとっても、近鉄、奈良交通の活性化が大事だ。

(委員) JRとは違い、私共は所詮、運送により需要をつくる事業ではないので、皆様の力を得ながら、何とか私共の商売の繁盛と地元の活性化につながればと思う。

(会長) 地域公共交通会議というのは、近鉄やJR、奈良交通を含めて、市全体の中で公共交通がどう在るべきかを協議をすることが趣旨なので、よろしく願いしたい。議事3についてはいろいろな意見が出たが、それを参考にして次回は予算もある程度決まっていると思うので、事務局の方でもう一度提案してもらいたい。平成23年度の事業案については、皆さんの意見を踏まえて事務局で整理してもらおうという形をお願いする。その他について事務局から説明してもらおう。

(事務局) 観光協会会長が監事になっているが、会長交代があった。監事についてはそのまま観光協会会長に引き継いでもらいたく、提案する。

(会長) 報告が最後になったが、ご承認をよろしく願いする。

(事務局) 以上で議題を終了し、地域公共交通会議を閉会する。